

# アルク英語教育実態レポート

Vol. 4

[2015年5月]

## ESAC：英語学習アドバイス業務とその成果

—2013、2014年度の5大学での実績から—



## はじめに

---

株式会社アルクは1969年の創業以来、月刊誌『ENGLISH JOURNAL』、通信教育講座「1000時間ヒアリングマラソン」、書籍「キクタン」シリーズなど様々な英語学習教材を開発してきました。近年は英語スピーキング能力測定試験「TSST (Telephone Standard Speaking Test)」、「英語学習アドバイザー資格認定制度 (English Study Advisors' Certificate: ESAC)」を独自に開発し、学習成果の検証や継続的学習支援のサービスも提供するようになりました。

私たちは、語学学習者に成果をもたらす有益な方法を常に追求したいと考えています。そのためにアルク教育総合研究所を設立しました。「アルク教育総研」は、学習行動を成果に結びつきやすくするために、教材・学習法の研究、学習者個人・企業・教育機関のニーズ調査等を随時行い、その結果を公表しています。

本レポートは、ESAC資格を取得した英語学習アドバイザーが「常駐」する大学における英語学習支援の実態を報告します。教師と異なる立場・視点から学習者を支援する英語学習アドバイザーがもたらす効果を見ていくことによって、画一的な教育提供が主流だった教育現場が変わろうとしている実態の一端をみることができます。

弊社のレポートが英語教育関連各位の参考になれば幸いです。

## ◆本レポートの概要◆

---

1. 英語学習アドバイザーの常駐が2年目を迎えた5つの大学全体では、年間利用件数が前年度比約1.4倍に増えた。
2. 「誰をターゲットとして」「何を行うのか」という大学側の姿勢を明確にすることの大切さが分かる結果となった。学年別に利用実態をみると、「1年生のTOEICテスト対策」「大学院生の留学試験対策」など、大学の施策を反映した学習者の相談が増加した。
3. 常駐2年目の大学では、1年目と比較して、学生の相談内容は、「留学したい」「スピーキング能力を上げたい」「TOEIC®テストのスコアを上げたい」など、英語学習を通して実現したい目的が次第に絞り込まれての相談になる傾向がでてきた。
4. 学習相談を2年継続していると、アドバイザーとの面談そのものを自分の継続学習のペースメーカーとして役立てようとする「リピーター」が増えた。

## ◆目次◆

---

|     |                      |       |
|-----|----------------------|-------|
| 1   | 英語学習アドバイザーの必要性       | p. 3  |
| 1.1 | ESAC 資格とは            | p. 3  |
| 1.2 | 学習アドバイスの目的           | p. 4  |
| 1.3 | 学習アドバイス業務の理論的背景      | p. 4  |
| 1.4 | 学習支援活動の内容            | p. 5  |
| 2   | 数値に見る ESAC の実績       | p. 7  |
| 2.1 | 学習アドバイザー活動2年目の成果—全体  | p. 8  |
| 2.2 | 学習アドバイザー活動2年目の成果—大学別 | p. 11 |
| 3   | 学習者の悩みとその対応—9つの事例    | p. 22 |
|     | まとめ                  | p. 28 |

# 1 英語学習アドバイザーの必要性

近年、留学・英語学習支援サービスを外部から導入する大学が増えてきた。「グローバル人材」の育成はかねてより産業界から求められ、国の教育方針も変化してきたことがその背景にある。

「大学のグローバル化」「世界展開力強化」をキーワードに、文部科学省は2012（平成24）年度に「グローバル人材育成推進事業」を立ち上げ、129大学が152件の企画を申請し42大学が採択された。2014（平成26）年度には「スーパーグローバル大学創成支援」の事業募集があり、申請109件から37大学が採択されたことはマスメディアでも大きく取り上げられた。各事業とも学生のTOEIC、TOEFL等のテストのスコア目標や留学生の受け入れ・送り出しの数値目標を掲げているのが特徴である。各大学は「限られた期間内」に効率的に「成果」を出すべく、学内にない「ノウハウ」や「人材」を導入することで「スピード感」をもって確実に目標達成したいと考えるようになっている。

アルクは2005年より「英語学習アドバイザー資格認定制度 English Study Advisors' Certificate (ESAC)」を運用している。学習者が「自律的学習」を進められるよう支援することのみを活動目的とする「プロの英語学習支援者」を育成・管理している。

ここでは、ESACの概要と実際のESAC資格保持者たちの活動実績を報告する。

## 1.1 ESAC 資格とは

ESACには下記のような4段階のレベルの資格がある。

現在、「プロフェッショナル」「マスター」資格を持った人々が、各種教育機関や企業でアドバイ業務に当たっている。ESACの資格一覧は下記のとおりである。

| レベル       | 説明                         | 定義  | 資格の取得                |  |
|-----------|----------------------------|---|----------------------|--|
| ジュニア      | 英語学習アドバイザーに関する基礎知識を備えている   | 英語学習アドバイザーに関する教材（書籍、DVD）で学習している。大学生協、書店等で英語教材の説明・販売をする際、学習した知識を生かすことができる。   | 申請資格<br>審査方法<br>更新手続 | 指定教材の学習（TOEIC600点以上取得推奨）<br>課題提出<br>特になし   |
| アシエイト     | 自分の英語学習経験を踏まえ、適切なアドバイスができる | 自分の学習体験を例に、適切な学習アドバイスができる。英語学習アドバイザーが主たる業務である場合の他、大学生協、書店等での英語教材販売員など英語学習周辺の仕事にも活躍の場が広がる。   | 申請資格<br>審査方法<br>更新手続 | ・ジュニア資格を取得<br>・指定ワークショップ修了<br>・TSST/SSTレベル6以上（ただし1年以内のスコア）<br>出願書類<br>4年に1度  |
| プロフェッショナル | プロの学習アドバイザーとして、即戦力として活躍できる | 高校や大学・語学学校・留学相談機関などにおいて、対面授業・書籍・通信教育・Eラーニング等多様な手段・教材で学ぶ学習者のアドバイザーとして、活躍の道がさらに広がる。   | 申請資格<br>審査方法<br>更新手続 | ・ジュニア資格を取得<br>・指定ワークショップ修了<br>・TSST/SSTレベル7以上（ただし1年以内のスコア）<br>・英語学習アドバイザー経験があること<br>・英文エッセー課題<br>・アドバイス実践レポート課題<br>出願書類<br>4年に1度     |
| マスター      | 新たな学習アドバイザーの育成ができる         | 英語力、指導力、社会経験の面で、英語学習アドバイザーとして最高の資格。一般学習者へのアドバイスはもとより、他の学習アドバイザーへのアドバイザーとして、後進の育成を行う能力・知識・技能を備えていることや、複数の資格者をマネージメントする能力などが求められる。たとえば、セミナーで講師を担当したり、大きな英会話スクールや団体などのマネージャーとして複数のアドバイザーの指導に当たることができる。 | 申請資格<br>審査方法<br>更新手続 | ・TSST/SSTレベル8以上（ただし1年以内のスコア）<br>・TOEIC900点以上（ただし2年以内のスコア）<br>・プロフェッショナル資格者として3年相当の英語学習アドバイザー経験<br>実技テスト（正規マスターとほぼ同等のタスクを実施）<br>4年に1度 |

\*TSST/SSTはアルクが開発した英語スピーキングテスト

## 1.2 学習アドバイスの目的

英語学習アドバイザーは教師との立場の違いを意識し、以下のような目的を持って学習者と対話している。「学習のプロセス」に積極的に関与することで学習者の目的達成を支援するのである。

- ・学習者の学習行動パターンを変え、自律的学習を確立させる
- ・学習者に問題発見・解決策模索の習慣がつくようにする

学習アドバイザーは教育現場で教師と役割分担をして業務に当たる。教師と学習アドバイザーの役割の違い、分担を整理すると以下ようになる。

| 教師の役割  | 学習アドバイザーの役割  |
|--|--|
| <p>■学習者全体に対応</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ シラバス決定</li><li>・ 学年（クラス）ごとの目標決定</li><li>・ ティーチング</li><li>・ 評価</li><li>・ 全体の学習管理</li><li>・ 教育成果の検証</li></ul> | <p>■個別の学習者に対応</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 学習動機の維持・喚起</li><li>・ 「取り組んだ事実」を承認</li><li>・ 学習方法アドバイス</li><li>・ 評価しない</li><li>・ 個人目標の設定支援</li><li>・ 個別学習管理支援</li></ul> |

## 1.3 学習アドバイス業務の理論的背景

ESAC 資格を持つ学習アドバイザーは、アドバイスの理論を学習し実践訓練を受けている。学習成果を上げやすくすることを目的として、「動機づけ理論」「第二言語習得論」で扱われる以下のような概念を意識しながら実務に当たっている。

1. **自己決定の重要性**：言われたことではなく、内発的に自分で決めたこととして課題に取り組めるようにする。
2. **目標設定の重要性**：はっきりした具体的目標、現在の自分にとって難易度が少し高い目標（最近接発達領域）、本人が納得できる目標を設定する。
3. **自己効力感を持つことの重要性**：あまりにも高い目標ではなく、頑張れば達成できる目標を設けることで、「自分にもできそう」という気持ちを持たせることが重要。
4. **原因帰属の重要性**：思い通りの結果が出たとき、出なかったときの原因の捉え方。これまでの方法や努力を見つめ直して次の行動につなげるようにする。自分を俯瞰して見るメタ認知的行動を促し、PDCA サイクルを一緒に回すことの大切さを意識する。

5. **理想の自分像を描くことの重要**：自己ビジョン、英語を使っている自分を思い描くようにする。他人事ではなく「自分事」として学習に取り組み、外部から与えられた価値（「グローバル化」など）を自分の価値として内在化できるようにする。

## 1.4 学習支援活動の内容

学習アドバイザーの基本姿勢は、「対面で一人ひとりに最適な英語学習プランと方法をアドバイス」することである。学習プロセスに関与することで「学習者の学習行動パターンを変える」ことを第一の目的とする。そのために、以下のような項目を念頭に学習者と対話している。

### 1. 目標

いつまでに試験（TOEFL/TOEIC等）で何点取得を目指すのか、立てた目標の達成の度合いはどの程度か、留学に向けたスケジュール設定は妥当か、などを確認。

### 2. 現在の学習状況

学習の進み具合はどうか、その他に取り組んでいることはあるか、などを「傾聴」して確認。

### 3. 英語学習全般についての悩み

学習に関わる「3つの側面」（学習面、精神面、環境面\*）から具体的アドバイスを提供する。

### 4. 次回相談までの目標設定

複数回の相談を促し、継続的関与が継続学習につながるようにする。次回の相談までに「テキストのUnit\*\*まで終える」など具体的で達成可能な目標を話し合っ設定する。

### 5. 次回相談の日時の設定

学習の進捗状況の確認のために次回相談の予約を入れるよう促す。

\*アドバイスにおける「3つの側面」とは以下のような内容を指す。

| 項目  | 内容   |
|-----|--|
| 学習面 | 英語に関する質問や学習方法の相談に答える。4技能をバランスよく、学習者のレベルと目的を踏まえた学習方法・素材を提示する。   |
| 精神面 | 学習モチベーションの低下によって学習が滞っている場合、モチベーションをアップさせるために助言したり、学習スケジュールの調整等を促したりする。場合によっては学習の負荷を下げる助言などもする。具体的で明確、現実的、実行可能な目標設定を心掛ける。【努力を認める ⇒ 改善点を指摘する ⇒ 励まして終える】のパターンを意識して対話する。 |
| 環境面 | 多忙のため学習が滞っている場合や、学習をする場所の確保が困難な場合、どのようにすれば継続可能かをアドバイスする。短期的で達成可能な小さな目標と中期的で大きなゴールの設定を促したり、モバイル学習（例：スマートフォンで語彙学習）などの提案をしたりする。   |

英語学習アドバイザーは、勤務する場所・機関に応じてさまざまな形態で学習を支援する。以下は、学習アドバイザーの活動内容の一覧である。勤務する教育機関と協議の上、これらの一部または全部を担当する。

| 項目                   | 内容  |
|----------------------|---|
| 個別カウンセリング            | 多くの場合、特定の場所に待機しつつ、事前予約制により、1人20～30分の個別学習相談を実施。継続学習につなげるため、相談終了時に次回までの課題を決めるなどして、次回予約を促す。  |
| 指名制カウンセリング           | 特定の集団向けの必須カウンセリング。短期留学生への事前・事後カウンセリング、グローバル人材育成プログラム参加者向け、など。   |
| ミニ講座                 | 学生の自習用施設（Self-Access Learning Center: SALC など）において、1回30分、最大20名程度の英語学習ワークショップを開催。学習者のモチベーションの維持、個別カウンセリングへの誘導の施策として実施。開催頻度は教育機関によって異なる。テーマは、英語使用のスキル別練習、試験対策学習法など。 |
| スタディグループのサポート        | 学習者の自主学習グループ作りを促し、教育機関のラウンジ・会議室等を学習場所として活動することを助言。アドバイザーはファシリテーター役を担い、適宜アドバイスを行う。   |
| メールカウンセリング           | 所定の場所で会えない相談者に対して、Eメールで学習相談を実施。長期休暇中の学生向け、入学・入社前の対象者向け、など。  |
| ニュースレター              | 学習者のメールアドレス宛に、学習アドバイス、小テスト、イベント案内などを発信。個別カウンセリングを促すための施策として実施。送信頻度は教育機関によって異なる。   |
| Eラーニングクラスサポートカウンセリング | Eラーニング（アルクの「Net Academy2: NA2」等）を使った正課授業または課外授業の運営補助としてアドバイザーが関与。CALL教室において、教員と共にEラーニング活用方法のほか、英語学習そのものなどに関して助言。学習履歴を見ながら個別にアドバイスを行うこともある。                        |
| Eラーニングガイダンス          | アルクのEラーニング「NetAcademy2」の利用方法を年度初めなどに説明。   |
| Eラーニング小テスト           | アルクのEラーニング「NetAcademy2」を活用して英語の小テストをアドバイザーが作成。Eラーニング利用促進、授業の補助、などが目的。   |
| Eラーニング学習履歴管理         | アルクのEラーニング「NetAcademy2」の利用履歴を学生個別に調査し、授業担当教員に報告。利用率の低い学生にメール等で利用を促すこともある。   |
| 教職員向けカウンセリング         | 大学等の教職員研修の一環で、アドバイザーが可能な範囲で英語学習を支援。   |

## 2 数値にみる ESAC の実績

アルクはこれまで 40 を超える大学と企業において英語学習アドバイス業務を展開してきた。週に数回訪問して対面カウンセリングをしたり、電話やメールを使ってアドバイスしたりと業務形態は教育機関によってさまざまである。ここでは最も効果が期待できる「英語学習アドバイザー常駐型」で実施している大学 5 つの事例を取り上げて、ESAC 業務の実態とその効果を報告する。「常駐型」とは、原則的に、月曜から金曜まで、1 日 8 時間、特定の教育機関に滞在してアドバイス業務を行う形態を指す（活動の詳細な内容は各機関と協議の上で決定する）。

2013 年度、2014 年度の 2 年に渡るアドバイス業務の実態を調査したのは以下の 5 大学である。

|       |   |
|-------|---|
| CH 大学 | <ul style="list-style-type: none"> <li>概要: 国立総合大学。工学部 1～4 年、大学院生が対象。E ラーニングの利用促進、TOEIC 対策がメインだが、留学関連、英語学習全般の相談も多い。</li> <li>アドバイザー導入の目的: TOEIC スコア向上と留学促進</li> </ul>  |
| ME 大学 | <ul style="list-style-type: none"> <li>概要: 私立総合大学。10 学部の 1～4 年生、大学院生が対象。海外留学促進に特化した相談、学習アドバイスが主業務。</li> <li>アドバイザー導入の目的: 留学促進</li> </ul>  |
| SH 大学 | <ul style="list-style-type: none"> <li>概要: 私立女子大学。文系の学部 1～4 年生に加え、入学予定者も対象。E ラーニング授業の補助、海外留学に関心のある層への対応が主業務。スキル別の英語学習方法に関わる相談も多い。入学前準備教育としては E ラーニングをサポート。</li> <li>アドバイザー導入の目的: E ラーニング活用と英語能力底上げ</li> </ul> |
| TK 大学 | <ul style="list-style-type: none"> <li>概要: 理系学部だけの国立大学。1～4 年生、大学院生に加え、研修の一環として参加する教職員も対象。TOEIC テストのスコアが進級要件。</li> <li>アドバイザー導入の目的: TOEIC スコア向上と留学促進</li> </ul>  |
| TO 大学 | <ul style="list-style-type: none"> <li>概要: 国立総合大学。10 学部の 1～4 年生、大学院生が対象。海外留学に関心のある層への対応が主業務。特に夏期と冬期に海外研修と連動したカウンセリングを実施。スキル別の英語学習方法に関わる相談も多い。</li> <li>アドバイザー導入の目的: 留学促進、英語力向上</li> </ul>                     |

各大学で学習アドバイザーを活用している業務内容は、以下のように異なっている。

| 大学  | 個別カウンセリング | ミニ講座 | スタディグループ | メールカウンセリング | ニュースレター | Eラーニングクラスサポートカウンセリング | Eラーニングガイダンス | Eラーニング小テスト | Eラーニング学習履歴管理 | 教職員向けカウンセリング |
|-----|-----------|------|----------|------------|---------|----------------------|-------------|------------|--------------|--------------|
| CH大 | ○         | ○    | ×        | ○          | ○       | ×                    | ○           | ○          | ○            | ×            |
| ME大 | ○         | ○    | ○        | ○          | ×       | ×                    | ×           | ×          | ×            | ×            |
| SH大 | ○         | ○    | ×        | ○          | ○       | ○                    | ○           | ×          | ○            | ×            |
| TK大 | ○         | ○    | ○        | ○          | ×       | ×                    | ○           | ×          | ×            | ○            |
| TO大 | ○         | ×    | ×        | ○          | ×       | ×                    | ○           | ×          | ×            | ○            |



## 2.1 学習アドバイザー活動2年目の成果—全体

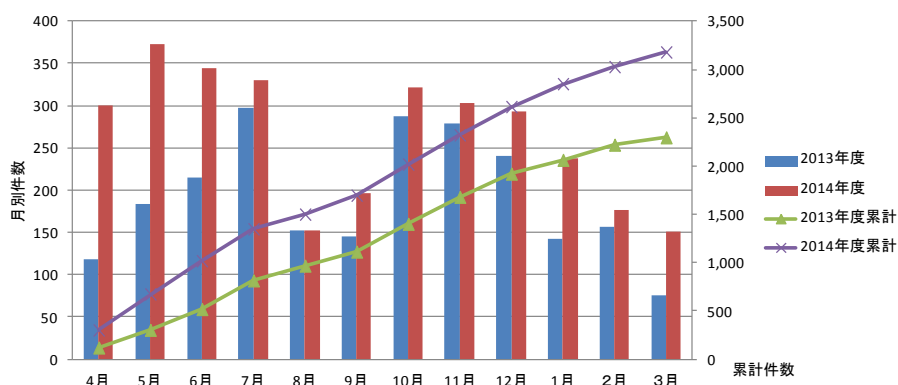
5つ大学を個別にみて行く前に、5大学を総合しての傾向をみてみたい。2013年度と2014年度の総相談件数を下記の4つの観点から分析し、英語学習アドバイザーが通年で稼働すると、「2年目にはどんな変化が現れるか」を確認する。

- ・相談の総件数
- ・学年別相談件数
- ・初訪・再訪の件数
- ・相談内容別件数

### ■相談の総件数

5大学全体でみると、相談の総数は約1.4倍に増えた。大学による学習アドバイザー運営方針の変更または学生間の「ロコミ」の広がりが増えたことが変化した主な要因である。2年目の前期に利用件数が伸びたのは、1年目の運用を踏まえて、1年生などにターゲットを絞ってアドバイザー利用の方針を強化した大学があったためである。

5大学合計の相談件数

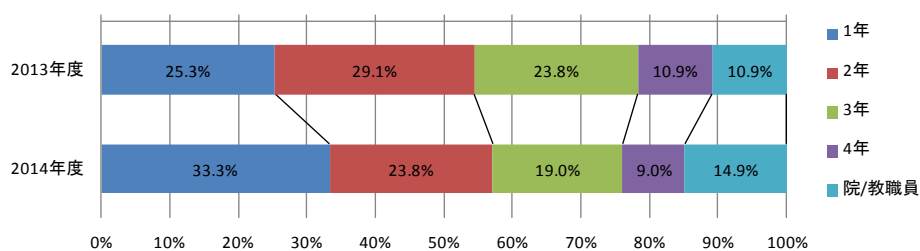


|        | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月  | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月  | 3月  | 合計    |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 2013年度 | 118 | 183 | 215 | 297 | 153 | 145 | 288 | 279 | 240 | 143 | 157 | 76  | 2,294 |
| 2014年度 | 300 | 373 | 344 | 330 | 152 | 196 | 322 | 303 | 293 | 237 | 177 | 151 | 3,178 |

### ■学年別相談件数

2年目で変化が見えるのは、1年生と大学院生・教職員の利用の伸びである。1年生は25.3%から33.3%へ、大学院生・教職員は10.9%から14.9%へ拡大した。1年生の構成比が伸びたのは、1年次にTOEICテストの受験が必須になったり、TOEIC対策の学習に英語学習アドバイザーの活用を大学が促したりした結果である。大学院生・教職員の利用が進んだのは、特に大学院生が海外留学を意識して留学手続きやTOEFLやIELTSなどの試験対策を聞きに来たり、英語でのプレゼンテーションを想定してスピーキングスキルの身に付け方などを相談しに来たりした結果である。

### 学年別構成比

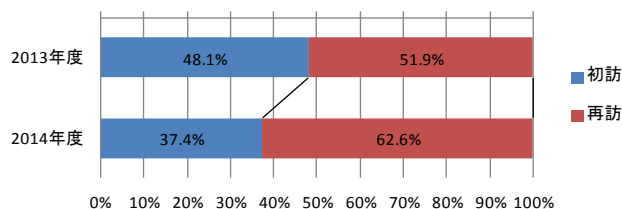


|        | 1年    | 2年    | 3年    | 4年    | 院/教職員 | 計      |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 2013年度 | 578   | 671   | 549   | 250   | 246   | 2,294  |
| 2014年度 | 1046  | 738   | 618   | 286   | 464   | 3,152  |
| 2013年度 | 25.3% | 29.1% | 23.8% | 10.9% | 10.9% | 100.0% |
| 2014年度 | 33.3% | 23.8% | 19.0% | 9.0%  | 14.9% | 100.0% |

### ■初訪・再訪の件数

学習アドバイザー運用2年目になると、「リピーター」の割合が増えてきた。「再訪」というのは同じ年度内に2回以上アドバイザーとの対話を重ねた事例を指している。年に数回の人ばかりではなく、10回を超える頻度で「学習相談室」を訪れ、自分なりの学習スタイルを作っていた学生もいる。TOEIC や IELTS を受けて結果が出るたびに報告に来て次の学習内容などを相談にくる人もいる。「口コミ」でリピート利用が増えたことに加え、自分で決めた学習計画を「これで大丈夫だろうか」と確認のために訪れる「自律的学習者」もリピーターの中に混じってきている。

### 訪問頻度



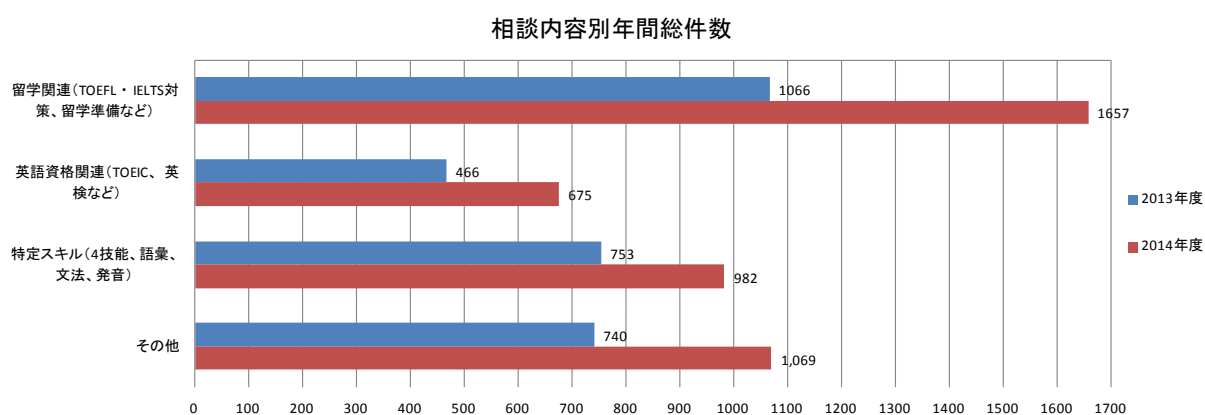
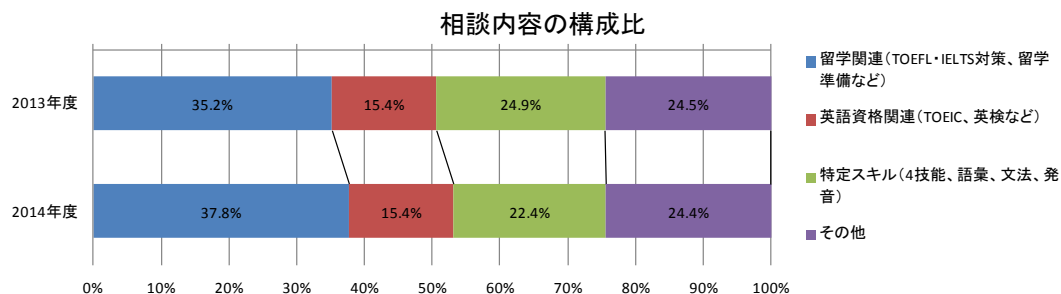
|        | 初訪    | 再訪    | 計      |
|--------|-------|-------|--------|
| 2013年度 | 1,104 | 1,190 | 2,294  |
| 2014年度 | 1,190 | 1,988 | 3,178  |
| 2013年度 | 48.1% | 51.9% | 100.0% |
| 2014年度 | 37.4% | 62.6% | 100.0% |

### ■相談内容別件数

ここでは、同類としてまとめられる学習者の相談内容の項目立ては統合し、以下の4カテゴリーに集計したものを提示する。一人の相談内容が複数に渡る場合は内容ごとに集計した。

- ・留学関連 (TOEFL、IELTS 対策、留学準備など)
- ・英語資格関連 (TOEIC、英検など)
- ・特定スキル (4 技能、語彙、文法、発音)
- ・その他

相談内容の構成比は、1年目、2年目で目立った変化はない。一方、実際の相談件数をみてみると、「留学関連」は約1.6倍、「英語資格関連」は約1.4倍に伸びている。英語学習アドバイザーを利用している各大学が、TOEICのスコア向上、日本人学生の留学増加など「数値」に表れやすい分野で学生支援を充実させているためと推察される。



|        | 留学関連<br>(TOEFL・IELTS<br>対策、留学準備<br>など) | 英語資格関連<br>(TOEIC、英検<br>など) | 特定スキル(4<br>技能、語彙、文<br>法、発音) | その他   | 計      |
|--------|--|----------------------------|-----------------------------|-------|--------|
| 2013年度 | 1066                                   | 466                        | 753                         | 740   | 3,025  |
| 2014年度 | 1657                                   | 675                        | 982                         | 1,069 | 4,383  |
| 2013年度 | 35.2%                                  | 15.4%                      | 24.9%                       | 24.5% | 100.0% |
| 2014年度 | 37.8%                                  | 15.4%                      | 22.4%                       | 24.4% | 100.0% |

※複数選択あり

## 2.2 学習アドバイザー活動2年目の成果—大学別

本レポートで扱う内容は、アドバイザー「1名」が大学に「常駐」して扱ったものである。学習アドバイザーを利用できる学生の母数は大学によってまちまちである。ここに紹介するのは「リピート相談」も含めた相談の延べ件数である。5大学全体でみたのと同じく下記4つの観点から大学別に1年目と2年目の違いをみていきたい。

- ・相談の総件数
- ・学年別相談件数
- ・初訪・再訪の件数
- ・相談内容別件数

ここで取り上げる5つの大学の2013年度、2014年度2年間の取り組みで見えてきた変化を要約すると以下のようなになる。

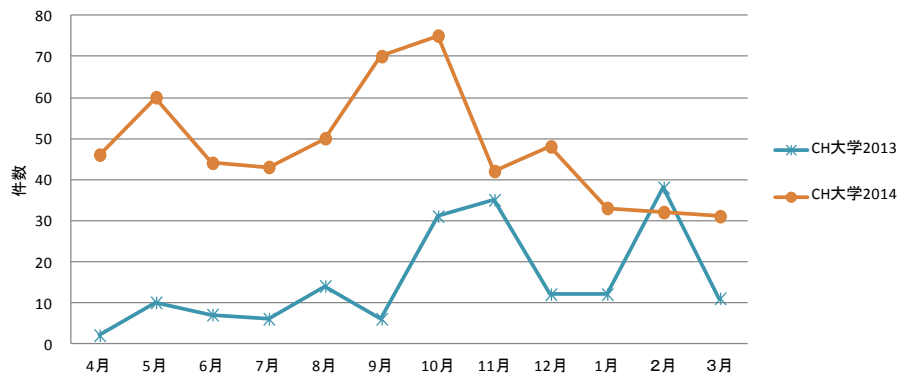
| 大学    | 英語学習アドバイザー運用2年目に起きた主な変化   |
|-------|---|
| CH 大学 | 大学院生の利用が伸びその多くはリピート利用だった。留学関連の相談は引き続き多い一方で、「スピーキングスキルに関する相談」の伸びが著しい。                      |
| ME 大学 | 2年目は「3年生の留学に関するリピート相談」が大きく伸びた。漠然とした憧れからではなく「留学を実現するにはいつまでに何をすべきか」という具体的相談が多くなった。          |
| SH 大学 | 2年目に大きく利用件数を伸ばしたのは主に1、2年生だったが、3、4年生も前年比で3倍、4倍に増えた。「就職」「留学」を意識した上で英語学習に取り組む姿勢が学生の中に広がってきた。 |
| TK 大学 | 2年目は1年生の利用がおおいに進んだ。「TOEIC 受験を意識した1年生が学習習慣をつけるべく何度も学習相談を利用した」といえる。                         |
| T0 大学 | 英語学習全般よりも「留学」に特化した学習相談が増えた。   |

# CH 大学

## ■相談の総件数

国立の CH 大学は、学生の TOEIC テストのスコアの向上と海外留学促進を目的に英語学習アドバイザーを導入した。2014 年度の相談件数は前年度より 390 件増えて約 3.1 倍となった。後で見るように、2 年目の件数増加の要因は、3 年生、4 年生、大学院生の利用が大きく伸びたことである。

相談件数の推移



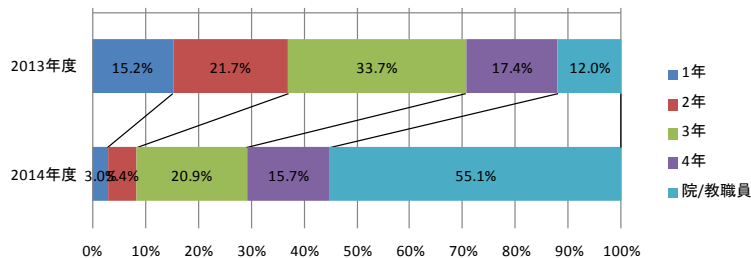
| 大学/月     | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計  |
|----------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| CH大学2013 | 2  | 10 | 7  | 6  | 14 | 6  | 31  | 35  | 12  | 12 | 38 | 11 | 184 |
| CH大学2014 | 46 | 60 | 44 | 43 | 50 | 70 | 75  | 42  | 48  | 33 | 32 | 31 | 574 |

## ■学年別相談件数

アドバイザー運用の 2 年目には、3 年生、4 年生、大学院生の利用が大きく伸びた。相談件数を見ると、3 年生は 1.9 倍、4 年生は 2.8 倍、院生の利用は実に 14.4 倍になっている。構成比をみても、院生は 1 年目 12.0% だったものが 2 年目は 55.1% を占めるに至っている。

工学部の学生にとって、就職、進学、留学への意識が高まる時期にアドバイザー利用件数が上がることに加え、アドバイザーからの報告によれば、運用が 2 年目に入って学内におけるアドバイザーの認知（口コミ）が広まったことも利用向上の要因のようである。「理系の院生」にとって英語の能力獲得が切実な課題になっていることの反映でもあると思われる。

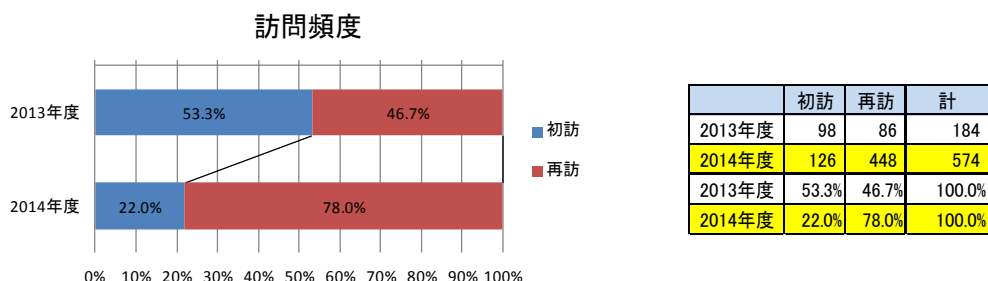
学年別構成比



|        | 1年    | 2年    | 3年    | 4年    | 院/教職員 | 計      |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 2013年度 | 28    | 40    | 62    | 32    | 22    | 184    |
| 2014年度 | 17    | 31    | 120   | 90    | 316   | 574    |
| 2013年度 | 15.2% | 21.7% | 33.7% | 17.4% | 12.0% | 100.0% |
| 2014年度 | 3.0%  | 5.4%  | 20.9% | 15.7% | 55.1% | 100.0% |

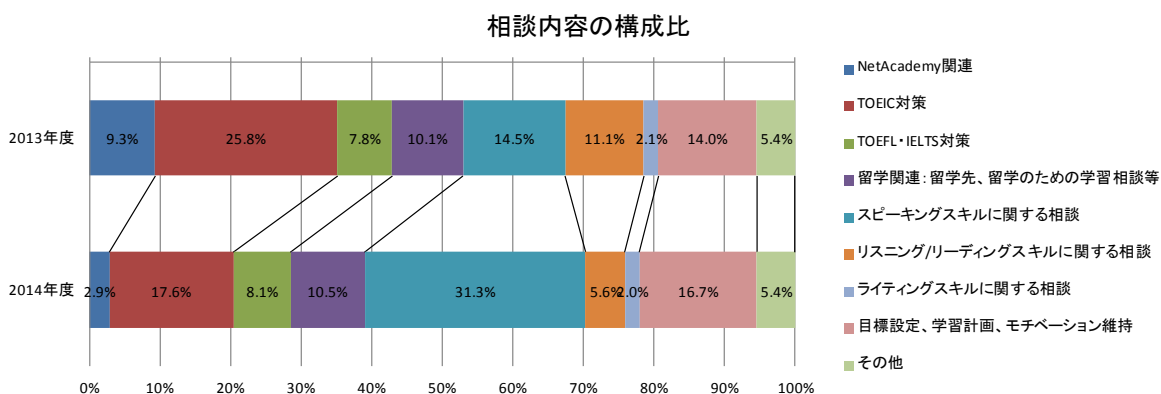
## ■初訪・再訪の件数

1年目は「初訪」と「再訪」の件数の構成比がほぼ同じだったが、2年目は「再訪」の件数が1年目の86件から362件伸びて448件へ、構成比が46.7%から78.0%になったのが顕著な変化である。全体では390件の伸びであるから、増加分のほとんどは「リピート利用」によるものだと分かる。たとえば、2014年2月に学習相談に来た32名は全員リピーターだった。



## ■相談内容別件数

CH大学の2年目の内容別に見た相談内容別件数は初年度に比して837件増で1年目の3.2倍になった。先に見たように、特に大学院生の利用が伸び、その多くはリピート利用だった。この点を踏まえて相談内容の変化を見てみると、留学関連は引き続き多い一方で、「スピーキングスキルに関する相談」の伸びが著しい。実に2年目は6.8倍になっている。相談者は全員理系の学生である。「英語の4技能型試験」が課される留学、研究発表、海外インターンシップなどに「スピーキング能力」が必要であるため、このような変化が起こっているものと思われる。



|        | NetAcademy関連 | TOEIC対策 | TOEFL・IELTS対策 | 留学関連：留学先、留学のための学習相談等 | スピーキングスキルに関する相談 | リスニング/リーディングスキルに関する相談 | ライティングスキルに関する相談 | 目標設定、学習計画、モチベーション維持 | その他  | 計      |
|--------|--------------|---------|---------------|----------------------|-----------------|-----------------------|-----------------|---------------------|------|--------|
| 2013年度 | 36           | 100     | 30            | 39                   | 56              | 43                    | 8               | 54                  | 21   | 387    |
| 2014年度 | 35           | 215     | 99            | 129                  | 383             | 68                    | 25              | 204                 | 66   | 1,224  |
| 2013年度 | 9.3%         | 25.8%   | 7.8%          | 10.1%                | 14.5%           | 11.1%                 | 2.1%            | 14.0%               | 5.4% | 100.0% |
| 2014年度 | 2.9%         | 17.6%   | 8.1%          | 10.5%                | 31.3%           | 5.6%                  | 2.0%            | 16.7%               | 5.4% | 100.0% |

※複数選択あり

## ME 大学

### ■相談の総件数

私立の ME 大学は留学生を増やすことを主な目的として 2013 年度に英語学習アドバイザーを導入した。2014 年度は相談件数が前年度より 184 件増加し、1.3 倍になった。2013 年度は 5 月からの運用であったので、2 年目の 4 月分 68 件を除いて比較しても、1.2 倍になっている。後で見るように、2 年生、3 年生の相談件数が増えたことが総件数を押し上げる結果となった。

相談件数の推移

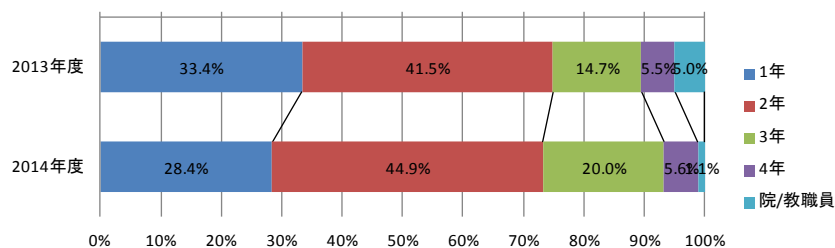


| 大学/月     | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計  |
|----------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| ME大学2013 | -  | 65 | 59 | 54 | 20 | 41 | 82  | 84  | 41  | 46 | 29 | 24 | 545 |
| ME大学2014 | 68 | 82 | 72 | 67 | 33 | 55 | 112 | 114 | 44  | 31 | 20 | 31 | 729 |

### ■学年別相談件数

総相談件数に占める 1 年生と 2 年生を合わせた割合は、1 年目 74.9%、2 年目 73.3%で同じ傾向が続いている。一方、両年度の利用件数の比較では、1 年生 1.1 倍、2 年生 1.4 倍、3 年生 1.8 倍、4 年生 1.4 倍となった。2 年目の相談件数が 184 件増えているのは、主に 2 年生と 3 年生の利用が進んだためである。アドバイザー運用が 2 年目に入り学生間の「口コミ」が広がったことも大きな背景要因である。2013 年度に利用した学生が留学し、その留学生から E メールで受け取る情報をアドバイザーが 2014 年度に相談に来た学生に還元するなどの事例も出てきている。ME 大学は留学生の数を増やすことを主な目的として学習相談を展開しているので、2 年目には、まさに留学を希望する学年の利用が進んだ結果となった。

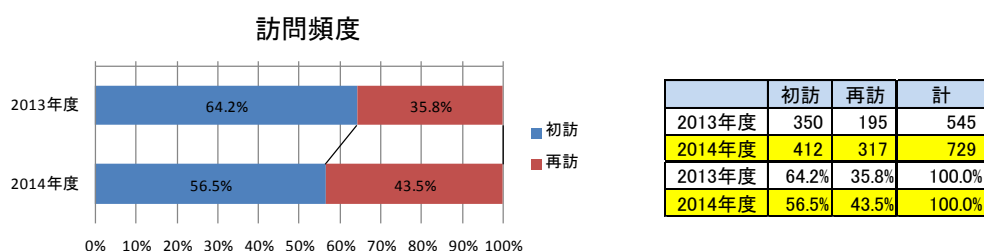
学年別構成比



|        | 1年    | 2年    | 3年    | 4年   | 院/教職員 | 計      |
|--------|-------|-------|-------|------|-------|--------|
| 2013年度 | 182   | 226   | 80    | 30   | 27    | 545    |
| 2014年度 | 207   | 327   | 146   | 41   | 8     | 729    |
| 2013年度 | 33.4% | 41.5% | 14.7% | 5.5% | 5.0%  | 100.0% |
| 2014年度 | 28.4% | 44.9% | 20.0% | 5.6% | 1.1%  | 100.0% |

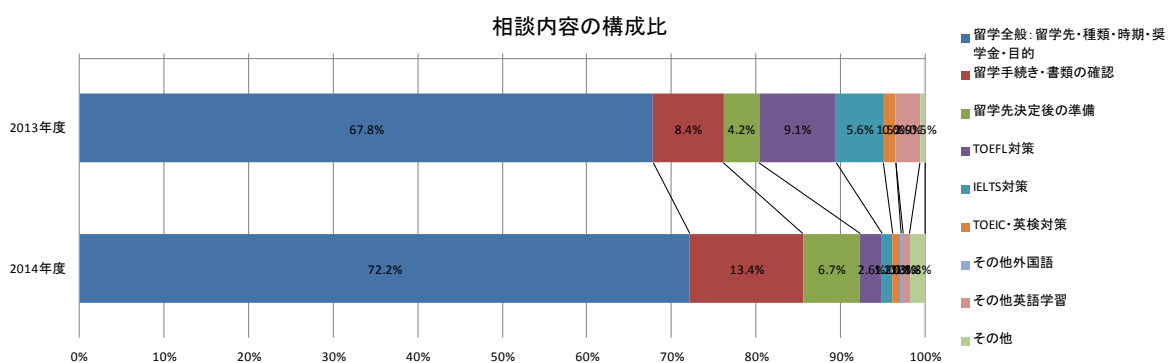
## ■初訪・再訪の件数

ME 大学は、留学に関わる内容の相談が圧倒的に多く、1、2年生がまずは情報収集に来訪するケースが多いため「初訪」が多い。この傾向は1年目、2年目ともに変わらない。2年目の相談件数は184件増えたがこの66%に当たる122件は再訪問であった。特に3年生が2年目は66件増で1.8倍になったことと考え合わせると、「留学を具体化しようとする3年生が複数回利用するようになった」傾向が読みとれる。



## ■相談内容別件数

ME 大学は学生の留学促進を学習相談の主目的に置いているため留学関連の相談内容も、「全般」「手続き」「試験対策」などと項目を細分化して集計している。グラフで見るとおり、1年目、2年目とも相談内容の95%以上が留学関連である（留学全般～IELTS対策まで5項目）。相談内容の内訳に関しては1年目と2年目で大きな変化は出ていないが、留学のための試験対策よりも「手続き」関係の相談の割合が増えている点を見ると、「留学実現」に向けて具体的に動いている学生の姿が浮かんでくる。



|        | 留学全般: 留学先・種類・時期・奨学金・目的 | 留学手続き・書類の確認 | 留学先決定後の準備 | TOEFL対策 | IELTS対策 | TOEIC・英検対策 | その他外国語 | その他英語学習 | その他  | 計      |
|--------|------------------------|-------------|-----------|---------|---------|------------|--------|---------|------|--------|
| 2013年度 | 373                    | 46          | 23        | 50      | 31      | 8          | 0      | 16      | 3    | 550    |
| 2014年度 | 526                    | 98          | 49        | 19      | 9       | 7          | 2      | 6       | 13   | 729    |
| 2013年度 | 67.8%                  | 8.4%        | 4.2%      | 9.1%    | 5.6%    | 1.5%       | 0.0%   | 2.9%    | 0.5% | 100.0% |
| 2014年度 | 72.2%                  | 13.4%       | 6.7%      | 2.6%    | 1.2%    | 1.0%       | 0.3%   | 0.8%    | 1.8% | 100.0% |

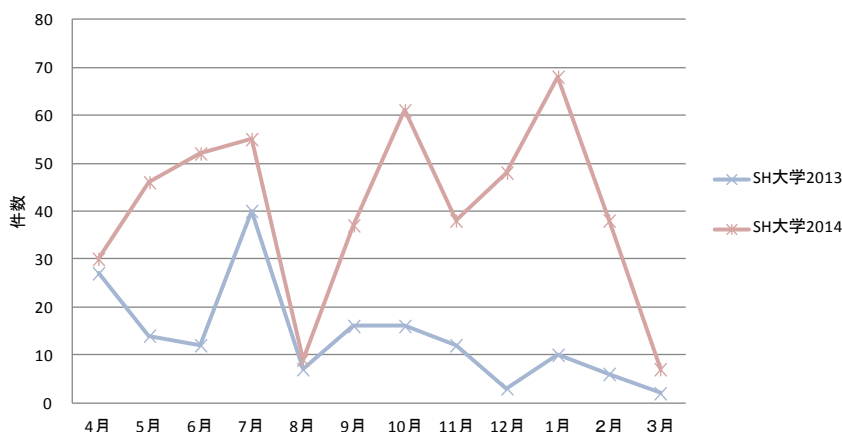


# SH 大学

## ■相談の総件数

SH 大学は学生の英語の自習用Eラーニングの活用推進と英語能力の底上げを目的として 2013 年度に英語学習アドバイザーを導入した。2014 年度は相談件数が前年度より 324 件増え、前年度比約 3 倍の利用となった。特に 1 年生と 2 年生の利用が伸びたのが大きな要因である。

相談件数の推移

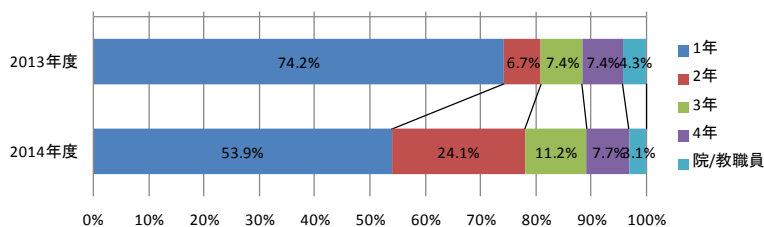


| 大学/月     | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計  |
|----------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| SH大学2013 | 27 | 14 | 12 | 40 | 7  | 16 | 16  | 12  | 3   | 10 | 6  | 2  | 165 |
| SH大学2014 | 30 | 46 | 52 | 55 | 9  | 37 | 61  | 38  | 48  | 68 | 38 | 7  | 489 |

## ■学年別相談件数

2 年目が前年度比約 3 倍になったのは、1 年生、2 年生の利用件数がそれぞれ 100 件以上伸びたのが主な要因である。1 年目は 1 年生の利用が中心だったが、2 年目は 2 年生、3 年生、4 年生にも利用が広がった結果、利用件数に占める 1 年生の構成比が 74.2%から 53.9%に下がった。学内における英語学習アドバイザーの認知が 2 年目に「ロコミ」で広がったことに加え、大学の担当事務局が留学に関心を寄せている学生に向け積極的に学習相談の利用を呼び掛けた結果でもある。

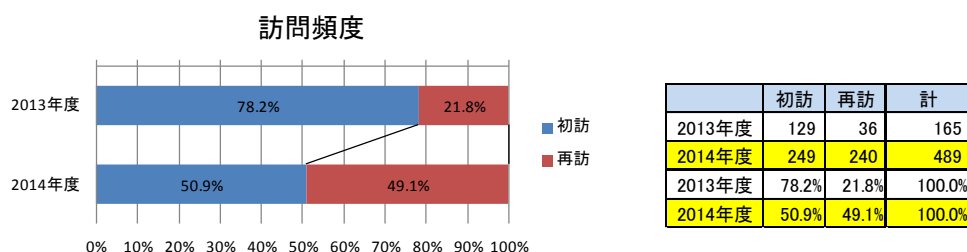
学年別構成比



|        | 1年    | 2年    | 3年    | 4年   | 院/教職員 | 計      |
|--------|-------|-------|-------|------|-------|--------|
| 2013年度 | 123   | 11    | 12    | 12   | 7     | 165    |
| 2014年度 | 266   | 116   | 55    | 37   | 15    | 489    |
| 2013年度 | 74.2% | 6.7%  | 7.4%  | 7.4% | 4.3%  | 100.0% |
| 2014年度 | 53.9% | 24.1% | 11.2% | 7.7% | 3.1%  | 100.0% |

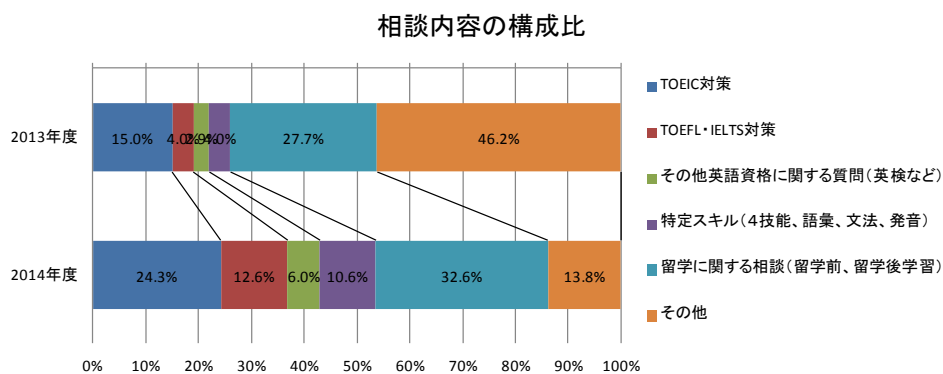
## ■初訪・再訪の件数

SH 大学は、1 年生が授業の一環で臨む E ラーニング学習との関連で来訪するケースが多いため、「初訪」が相対的に多い。2 年目は 1 年目に比して「初訪」は 120 件増の 1.9 倍となり、「再訪」は 204 件増の 6.7 倍となった結果、「初訪」50.9%、「再訪」49.1%とほぼ同じ構成比になった。2 年目に 2 年生、3 年生、4 年生にも利用が広がったことと考え合わせれば、この人たちも学習相談を複数回利用するようになった、といえるだろう。



## ■相談内容別件数

相談内容別の件数で見ると、2 年目は 391 件増え 1 年目の 3.3 倍になっている。2 年目は特に「TOEIC 対策」「TOEFL・IELTS 対策」「留学に関する相談（留学前、留学後学習）」の構成比が上がっていた。2 年目に大きく利用件数を伸ばしたのは主に 1 年生、2 年生だったが、3 年生、4 年生も前年比で 4.6 倍、3.1 倍に増えていたことを考え合わせると、「就職」「留学」を意識した上で英語学習に取り組む姿勢が学生の中に広がってきたのが伺える。



|        | TOEIC対策 | TOEFL・IELTS対策 | その他英語資格に関する質問(英検など) | 特定スキル(4技能、語彙、文法、発音) | 留学に関する相談(留学前、留学後学習) | その他   | 計      |
|--------|---------|---------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------|--------|
| 2013年度 | 26      | 7             | 5                   | 7                   | 48                  | 80    | 173    |
| 2014年度 | 137     | 71            | 34                  | 60                  | 184                 | 80    | 564    |
| 2013年度 | 15.0%   | 4.0%          | 2.9%                | 4.0%                | 27.7%               | 46.2% | 100.0% |
| 2014年度 | 24.3%   | 12.6%         | 6.0%                | 10.6%               | 32.6%               | 13.8% | 100.0% |

※複数選択あり

# TK 大学

## ■相談の総件数

国立のTK大学は、学生のTOEICスコア向上と留学促進を目的に英語学習アドバイザーを導入した。2年目の相談件数は221件増加し前年度の1.3倍になった。2014年度は年度初めの4月から6月の件数増加が顕著である。これは、大学が学生全てにTOEICテスト受験を奨励し、特に大学が定めた一定のスコアに達しない1年生には英語学習アドバイザーを活用して学習を進めた上での受験を促した結果である。

相談件数の推移



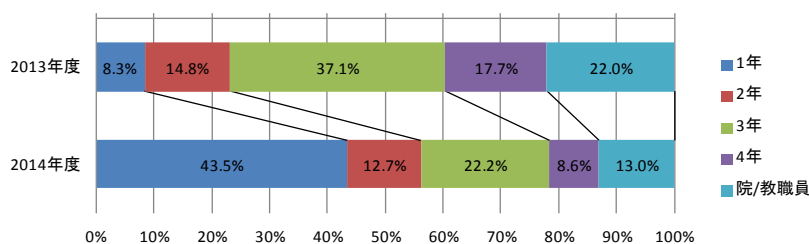
| 大学/月     | 4月  | 5月  | 6月  | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計  |
|----------|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| TK大学2013 | 49  | 48  | 44  | 85 | 77 | 44 | 67  | 70  | 78  | 51 | 66 | 29 | 708 |
| TK大学2014 | 122 | 140 | 107 | 92 | 30 | 16 | 52  | 74  | 99  | 79 | 56 | 62 | 929 |

## ■学年別相談件数

2年目に顕著な伸びを示したのは1年生である。59件から404件へ、実に6.8倍に利用者が増えた。これは、大学が特に1年生にTOEIC受験を必須とし、英語学習アドバイザーを利用した学習を推奨したことが大きな要因である。1年目の利用率が最大なのは3年生の37.1%だったが、2年目は全体の43.5%を占めた1年生になった。

2年目は2年生の相談件数は1.1倍になったが、3年生、4年生、院生/教職員の利用件数が落ちている。

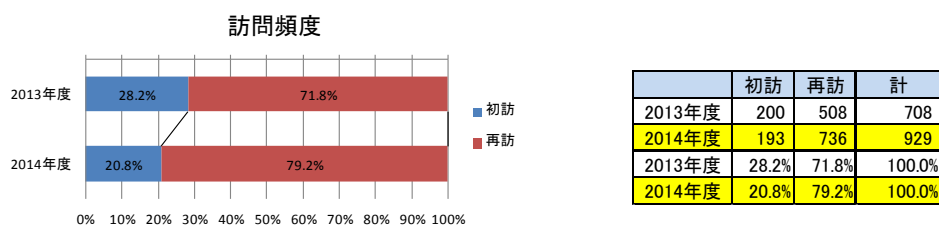
学年別構成比



|        | 1年    | 2年    | 3年    | 4年    | 院/教職員 | 計      |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 2013年度 | 59    | 105   | 263   | 125   | 156   | 708    |
| 2014年度 | 404   | 118   | 206   | 80    | 121   | 929    |
| 2013年度 | 8.3%  | 14.8% | 37.1% | 17.7% | 22.0% | 100.0% |
| 2014年度 | 43.5% | 12.7% | 22.2% | 8.6%  | 13.0% | 100.0% |

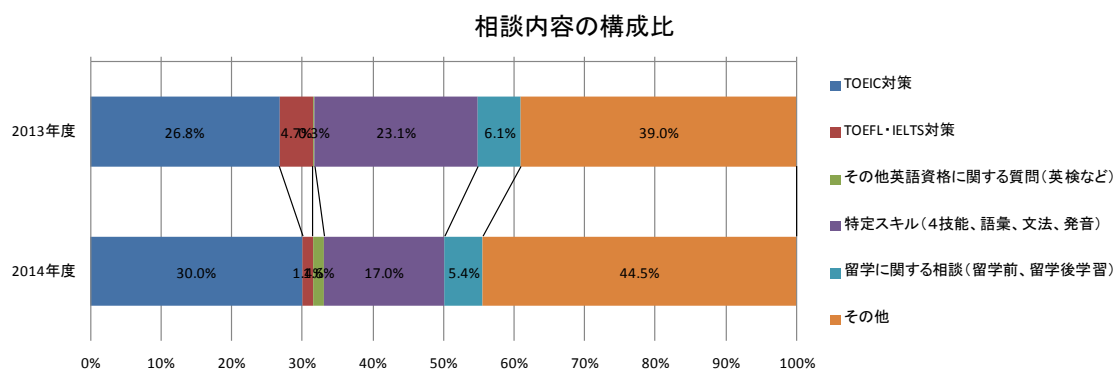
## ■初訪・再訪の件数

他大学に比して学習アドバイザー運用1年目からリピート利用者が多いのがTK大学の特徴だった。2年目はさらにその傾向が強まった。2年目の総相談件数は221件増え、そのすべては「リピーター」であった。来訪者との面談を終える時、次回の相談予約を入れる形で複数回の来訪をアドバイザーが積極的に促した結果である。継続学習のために英語学習アドバイザーを利用している学生の姿がうかがえる。2年目に1年生の利用がおおいに進んだことと考え合わせると、「TOEIC受験を意識した1年生が学習習慣をつけるべく何度も学習相談を利用した」といえそうだ。



## ■相談内容別件数

「TOEIC対策」「特定英語スキル(4技能、語彙、文法、発音)」に関する相談が多い傾向は1年目、2年目共通である。TK大学が学生のTOEICスコアを上げることを重視していることの反映でもある。「その他」に分類される相談には、特に1年生に多いケースとして、「TOEICへの準備も含め自分はどうような英語学習をすべきかわからない」という、学習者側に目的意識がまだ定まっていない状態での「相談」が含まれている。英語を学習することで何を実現したいのかをアドバイザーとの会話を重ねて明らかにしていく学生が多いようである。



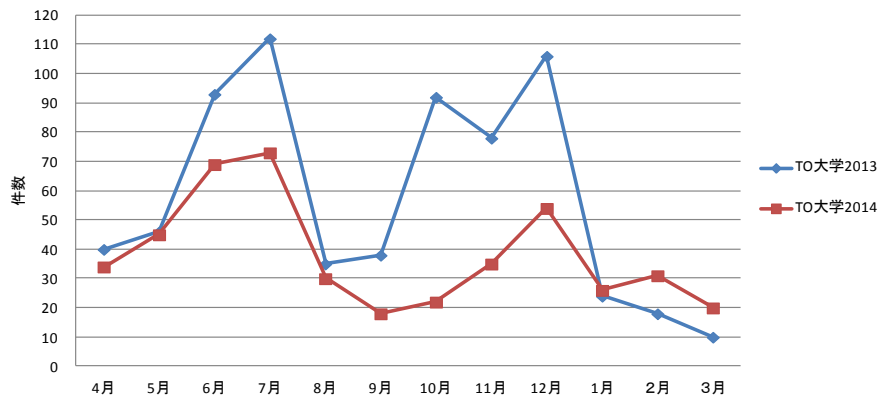
|        | TOEIC対策 | TOEFL・IELTS対策 | その他英語資格に関する質問(英検など) | 特定スキル(4技能、語彙、文法、発音) | 留学に関する相談(留学前、留学後学習) | その他   | 計      |
|--------|---------|---------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------|--------|
| 2013年度 | 273     | 48            | 3                   | 236                 | 62                  | 398   | 1,020  |
| 2014年度 | 356     | 17            | 19                  | 202                 | 64                  | 527   | 1,185  |
| 2013年度 | 26.8%   | 4.7%          | 0.3%                | 23.1%               | 6.1%                | 39.0% | 100.0% |
| 2014年度 | 30.0%   | 1.4%          | 1.6%                | 17.0%               | 5.4%                | 44.5% | 100.0% |

## TO 大学

### ■相談の総件数

国立の TO 大学は、学生に対して海外への短期留学を推奨している。2013 年度、留学対象者には留学前と留学後の最低 2 回は学習アドバイスを利用するよう指示が出ていた。留学を成功させるための事前学習、留学後のモチベーション維持と継続学習に向けて、アドバイザーとの対話が奨励されていた。2014 年度は、大学からの指示は「留学に関連して最低 1 回」と変化し、相談の年間総件数は 2013 年度の約 66% となった。留学に出る夏を挟む時期に相談件数が増加している傾向は両年度とも共通している。2 年目は、相談の総件数は減少しているが、後で見るように、相談者の属性と相談内容に変化が出ている。

相談件数の推移

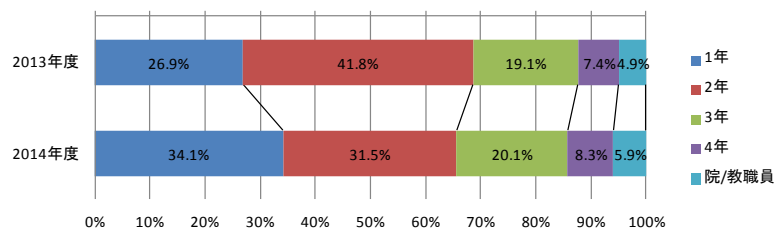


| 大学/月     | 4月 | 5月 | 6月 | 7月  | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計  |
|----------|----|----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| TO大学2013 | 40 | 46 | 93 | 112 | 35 | 38 | 92  | 78  | 106 | 24 | 18 | 10 | 692 |
| TO大学2014 | 34 | 45 | 69 | 73  | 30 | 18 | 22  | 35  | 54  | 26 | 31 | 20 | 457 |

### ■学年別相談件数

英語学習アドバイスの利用者の構成比をみると、2 年目は 1 年生が 26.9% から 34.1% へ 7.2 ポイント伸び、2 年生が 10.3 ポイント減少している。他の学年では大きな変化はない。2 年生の夏に海外研修に出る人が多く、2013 年度はその事前事後を含めて「最低 2 回」学習相談することが奨励されていたが、2014 年度は「最低 1 回」と大学の方針が転換された。2 年生の利用件数は前年よりマイナス 145 件とほぼ半減しているのが特徴的だ。

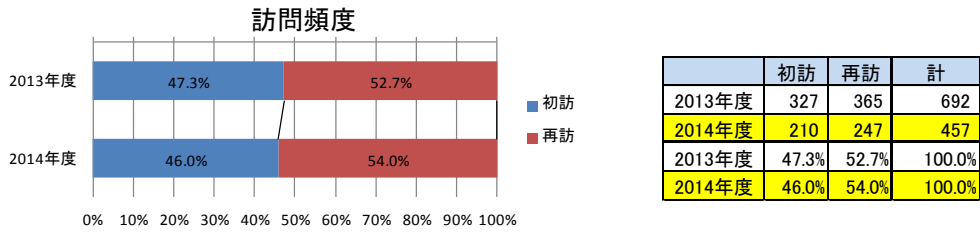
学年別構成比



|        | 1年    | 2年    | 3年    | 4年   | 院/教職員 | 計      |
|--------|-------|-------|-------|------|-------|--------|
| 2013年度 | 186   | 289   | 132   | 51   | 34    | 692    |
| 2014年度 | 156   | 144   | 92    | 38   | 27    | 457    |
| 2013年度 | 26.9% | 41.8% | 19.1% | 7.4% | 4.9%  | 100.0% |
| 2014年度 | 34.1% | 31.5% | 20.1% | 8.3% | 5.9%  | 100.0% |

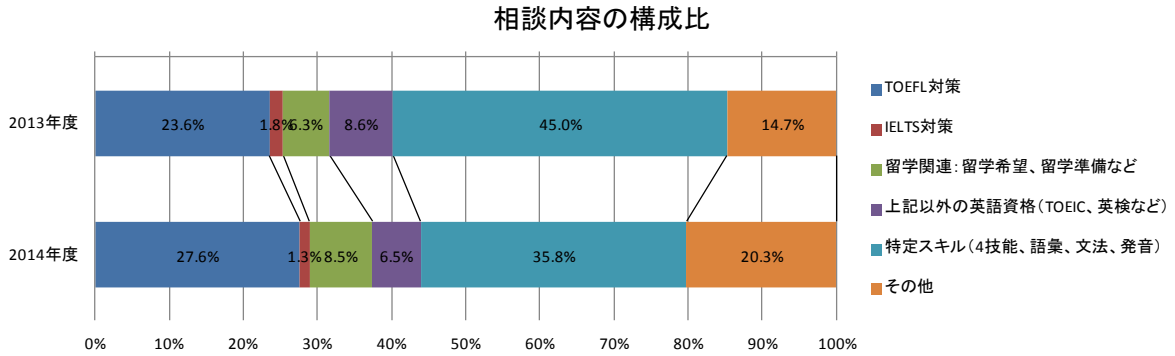
### ■初訪・再訪の件数

「初訪」と「再訪」の件数構成比はほぼ同じである。他の大学で2年目には「リピーター」の割合が増えていることと考え合わせると、ここでも大学の方針変更を受けて留学を考えている「2年生のリピーター」が減った、と言えそうだ。



### ■相談内容別件数

2年目に相談件数は減ったものの、相談内容に関しては「TOEFL対策」の構成比が23.6%から27.6%に伸び、「特定スキル（4技能、語彙、文法、発音）」が45.0%から35.8%に減少した。英語学習全般というよりも「留学」に特化した学習相談が増えているのは、海外留学を推進している大学の狙いに沿った形で学習アドバイザーの利用が進んでいると言える。



|        | TOEFL対策 | IELTS対策 | 留学関連: 留学希望、留学準備など | 上記以外の英語資格 (TOEIC、英検など) | 特定スキル (4技能、語彙、文法、発音) | その他   | 計      |
|--------|---------|---------|-------------------|------------------------|----------------------|-------|--------|
| 2013年度 | 211     | 16      | 56                | 77                     | 403                  | 132   | 895    |
| 2014年度 | 188     | 9       | 58                | 44                     | 244                  | 138   | 681    |
| 2013年度 | 23.6%   | 1.8%    | 6.3%              | 8.6%                   | 45.0%                | 14.7% | 100.0% |
| 2014年度 | 27.6%   | 1.3%    | 8.5%              | 6.5%                   | 35.8%                | 20.3% | 100.0% |

### 3 学習者の悩みとその対応—9つの事例

英語学習アドバイザーは相談者の学習プロセスに関与する。試験のスコアなどに表れない「学習プロセスの質の変化」にこそ、英語学習アドバイザーの本質的姿が見て取れる。ここでは「質」に関わるアドバイザーの実態を、現場のアドバイザーが記録した具体的事例をもって報告する。

#### ■ケース 1

- ・ 相談者の悩み：TOEIC テストのスコアを上げたいが、思うような学習ができない
- ・ 学部：管理栄養学部
- ・ 学年：3年
- ・ 相談期間：1年
- ・ 来訪回数：4回

| 相談者との対話の内容   | アドバイスで重視した点  |
|--|--|
| <p>1. 3年次に他大学より編入。英語の単位取得と英語力アップのためにTOEIC スコアアップをしたいと来訪。テスト概要と勉強方法および、学習計画を本人と話し合って作成、進捗状況などを定期的に報告してもらおうこととする。</p> <p>2. その後、本人よりメールがあり、学科の課題やテストがあるため思うような英語学習ができないとのこと。真面目な性格で、「きちんと学習をする」意識が強かったので、やや柔軟に取り組むようにアドバイス。</p> <p>3. 毎日5～10分ぐらい、通学電車の中や昼休みなどを利用して、「いつでも、どこでも気軽に」学習をするようにアドバイス。本人とのやりとりもメールを中心に行うこととする。</p> <p>4. その後しばらくは本人からは音信不通になったが、こちらから一方的にメールで英語学習の状況を聞いたり、英語学習の情報などを定期的に提供したりした。</p> <p>5. 面談3回目のおと5カ月ぶりに来訪。編入してから学業との両立がずっと難しかったとのこと。無理のない英語学習方法と共に英検にチャレンジすることを提案。同時に、うまくいかなくてもあまり気にせずに、継続学習を「細く長く」続けていくことをアドバイス。</p> | <p>・ <b>目標設定</b></p> <p>大学へ編入後のキャンパスライフがどうなるのか予測がつきにくかったこともあり、当初に本人が計画した英語学習が思うようにできなかったため、目標設定の変更を勧めた。</p> <p>・ <b>原因帰属</b></p> <p>本人の性格を勘案して、「目標を変えること、思ったような結果が出なかった原因は本人の努力不足ではない」ことを繰り返し伝え、気楽に英語学習に取り組むためのアドバイスを心掛けた。</p> |

#### ■ケース 2

- ・ 相談者の悩み：留学への漠然としたあこがれはあるが、学習方法がわからない
- ・ 学部：国際学部
- ・ 学年：1年
- ・ 相談期間：1年
- ・ 来訪回数：18回

| 相談者との対話の内容   | アドバイスで重視した点   |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 留学に必要な TOEIC テストのスコアを獲得するため相談に来訪。</li> <li>2. これまでは具体的な目標スコアもなく、英語学習も与えられたものをこなす程度だったとのこと。</li> <li>3. この機会に TOEIC の概要を説明、この学生に合った学習参考書を挙げつつ学習方法を簡単にレクチャーし、以後は適宜、学習の進捗状況を報告に来るということにする。</li> <li>4. 前期終了後、学内 TOEIC IP テストを受験したが期待どおりの結果が出なかった。1年生の前期はキャンパスライフに慣れるのが精いっぱい十分に学習に時間がさけなかったとのこと。</li> <li>5. 空いている時間に来訪してもらい、20分程度の簡単な TOEIC 対策ミニ・レッスンを7回実施、毎回できる範囲内で課題をやってくることで、自己学習のペースを作ることができた。</li> </ol> | <p>・ <b>目標設定</b></p> <p>高校卒業以来、特にはっきりとした目標もなく、ただ漫然とやっていた英語学習が、TOEIC の目標スコアを明示したことで、具体的方法論にそって英語学習ができた。</p> <p>留学までにどのくらいの英語力アップを目指すのか、無理のない目標設定を提示することで、英語学習にメリハリをつけてあげることができた。</p> |

### ■ケース3

- ・ 相談者の悩み：**学習動機低く、試験結果も低迷、英語には何から手を付けるべきかわからない**
- ・ 学部：工学部
- ・ 学年：4年
- ・ 相談期間：1年
- ・ 来訪回数：4回

| 相談者との対話の内容   | アドバイスで重視した点   |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初めは春休みに開催した1週間の TOEIC 講座にカップルで参加。本人は385点。彼女は490点。</li> <li>2. 集団の中だと全く質問しないタイプ。苦手傾向を指摘してもなかなかそれに対する勉強に取り組めなかった。(一方彼女は同じアプローチで、3週間後のテストで90点アップした)</li> <li>3. TOEIC 講座後、半年期間が空き、一人で相談に来訪。</li> <li>4. 現状をポツリポツリと話してくれた。「結果が出ないのはくやしいですよ。でも、もう少し自分に厳しくこの1カ月頑張ってみては？」と提案。</li> <li>5. 毎週メールで学習の進捗を報告してもらうことにした。メールではこちらから新しい提案はせず、相談者が取り組んだ学習自体を認め、それを継続することでどんなスキルにつながるかを返信した。</li> <li>6. 相談者はメールに書くことで自分の状況を確認できている様子だった。</li> <li>7. 2週間に1回のペースで面談をし、会わない週はメールで進捗確認と課題の提案を繰り返した。</li> </ol> | <p>・ <b>自己効力感</b></p> <p>1週間ごとに、課題を区切ることで小さなゴールを設け達成感が感じられるようにした。</p> <p>・ <b>原因帰属</b></p> <p>1週間ごとの課題をやってみての感想をメールで報告してもらうことで、自分のやった努力を認識し見つめ直して次の行動につなげられるようになった。</p> |



■ケース4

- ・ 相談者の悩み：大学の留学プログラムに参加したいが、英語学習に積極性が出ない
- ・ 学部：文学部
- ・ 学年：1～2年
- ・ 相談期間：1年3カ月
- ・ 来訪回数：3回

| 相談者との対話の内容   | アドバイスで重視した点   |
|--|---|
| <p>1. 当初は短期海外留学プログラム参加の事前・事後研修の一環で面談に来訪。</p> <p>2. 注意して聞いていないと話声も聞こえないような極端におとなしいタイプ。そのため初回カウンセリングでは聴き取りに苦労した。</p> <p>3. 海外留学プログラム後の2回目面談以降、交換留学参加も検討するようになった。</p> <p>4. 2回目のちょうど1年後に自発的に突然来訪。2回目以降、独学でTOEFL iBTの勉強をしていたとのこと。</p> <p>5. 3回目の面談時は、TOEFL iBT 88点で、スピーキングだけスコアが低いので何とかしたいという相談だった。</p> <p>6. おとなしいながらも、初回から比べると、3回目のカウンセリングでは大分話してくれるようになり、「1年前〇〇だったTOEFLスコアも今は××まで上がって、1人でよくここまでがんばりましたよね」と言ったところ、「はい!」と笑顔で返答してくれるまで打ち解けた。</p> | <p>・ 自己決定</p> <p>おとなしく、今までは他者から言われたことは素直に行動に移してきた、というような印象の学習者だったが、「自分はどうしたいか」という所を徹底的に傾聴した。</p> <p>・ 原因帰属</p> <p>英語資格試験の結果重視で勉強していたため、うまく行った場合、思いきり褒めるようにした。</p> |

■ケース5

- ・ 相談者の悩み：大学の留学プログラムに参加したいが、モチベーションを維持できない
- ・ 学部：教育学部
- ・ 学年：2～3年
- ・ 相談期間：1年6カ月
- ・ 来訪回数：5回

| 相談者との対話の内容   | アドバイスで重視した点   |
|--|---|
| <p>1. 初回は、英検の2次面接試験の練習相手になってほしいとの相談内容だった。</p> <p>2. 以後、「英検に受かった」「今度は〇〇したい」等、自分で決めたことを、順調にこなしていた様子。</p> <p>3. 面談3回目には、大学の交換留学制度が突然変更になり、前年までは応募できていたはずのものに応募できなくなったと、ひどく落ち込んで来訪。</p> <p>4. 学内の英語学習ミニ講座参加を経て、面談4回目、「半年後、要件を確実に満たして交換留学に応募しなোস」と宣言、5回</p> | <p>・ 自己決定+目標設定+自己効力感</p> <p>学習者が自分で決めた目標や学習内容について、アドバイザーも妥当であるかどうか考え、妥当だと判断できた場合、「できることは何でもするので一緒にやってみようね」と常に声掛けしていた。</p> <p>・ 原因帰属</p> <p>結果が良くなかったときに、アドバイザーもできる限り良い方向へ進めるよう情報を</p> |

|  |  |
|--|--|
| <p>目に「要件を満たすことができ、次回は応募することができる」と報告があった。</p> <p>5. 以後、以前のように「次は〇〇したい」と自分で決めて行動に移せる学習者に戻った。</p> | <p>収集し、学習者に伝えた。</p> <p>・理想の自分像</p> <p>節目節目の面談でなぜ英語を学習するのか、というポイントをリマインドした。</p> |
|--|--|

■ケース6

- ・ 相談者の悩み：英語はかなり苦手、でも大学院に進みたい
- ・ 学部/大学院：農学部
- ・ 学年：4年～修士1年
- ・ 相談期間：1年
- ・ 来訪回数：6回

| 相談者との対話の内容  | アドバイスで重視した点  |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「英語ができない学生」とのレッテルを周囲から貼られ、教授の勧めもあり、院試の英語試験のための相談で来訪。</li> <li>2. 自分自身も「英語苦手」と意識。</li> <li>3. 面談初回から5回目までは3カ月間という短期間に集中的に来訪。</li> <li>4. その間、普段の学習でも、英語資格試験の結果もかんばしくない状況が継続。</li> <li>5. 「とにかく忙しい」「何をいつやったらいいかわからない」「生活の中で他のことを減らして英語学習に時間を充てられない」等、アドバイザーへの依存度が高い状態が継続しつつ、どうにか英語学習を実行。</li> <li>6. 院試があった時期を最後に来訪が途絶えたが、半年後に突然来訪。</li> <li>7. 「院試はぎりぎりのラインで何とか受かった。せっかく英語学習の習慣が身に付いたので、このまま継続したいが何をしたらいいか」との相談だった。</li> </ol> | <p>・自己決定＋自己効力感＋理想の自分像</p> <p>マイナスな要素ばかりの状況でも、「英語ができたらいいな」という気持ちはどこかにある状態だったため、「学習がうまく行かなかった場合、具体的にどうするか」というプランを常時3つ程度話し合いで決め、準備するようにした。</p> <p>「わずかな進歩でも自分を肯定できるように褒める」をひたすら繰り返した。結果的に、うまく行っていないように見えても着実に目標に近付いていることを常時リマインドすることになった。</p> |

■ケース7

- ・ 相談者の悩み：**海外の大学院に行きたいが、一人でどこまで頑張れるか不安**
- ・ 学部/大学院：工学部
- ・ 学年：4年～海外大学院
- ・ 相談期間：1年
- ・ 来訪回数：4回

| 相談者との対話の内容  | アドバイスで重視した点   |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海外の大学院へ正規留学・進学のため、TOEFL iBT と GRE を中心に本気で英語学習に取り組んでいる相談者。</li> <li>2. 学内では、内部進学→交換留学のステップにはサポートがあるが、その他の正規留学となるとサポートが得られないとのことで来訪。</li> <li>3. アドバイザーに求めることが「どうしたら△△の試験で○点取れ、留学できるか」ではなく、専門の勉強+ハイレベルな英語学習を1人で1年間続け、精神的にギリギリな状態をサポートしてほしい、というような様子と推測できた。</li> <li>4. 面談のたび「今の学習」と「TOEFL iBT や GRE で結果どうなったか」ということを確認するなど、学習者の話をひたすら聞くことに徹する。</li> <li>5. 結果として、海外の大学院数カ所へ出願するにいった。</li> </ol> | <p>・ <b>理想の自分像+「精神面のサポート」</b></p> <p>初回来訪時から自律した英語学習者でハイレベルな英語が理解・運用できる状態だったため、通常のアドバイスとは離れ、ひたすら相談者の語る「学習者の理想」に付き合い、「今の状況確認」「今悩んでいること」を傾聴することでうまくいった。</p> |

■ケース8

- ・ 相談者の悩み：**モチベーションは高いが、実力がついていかない**
- ・ 学部：工学部
- ・ 学年：3～4年
- ・ 相談期間：1年3カ月
- ・ 来訪回数：11回

| 相談者との対話の内容   | アドバイスで重視した点   |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海外留学プログラムの事前・事後研修の一環として来訪。</li> <li>2. 最初から海外志向だったが、実力が追いついていない状態。</li> <li>3. 学内の教授が行うアドバイスを利用するがほしい情報・サポートは得られなかった様子。</li> <li>4. 交換留学、正規大学院留学、海外インターンシップ等形態は未定だが、とにかく海外でトップレベルの研究を行いたい、とのこと。</li> <li>5. 英語学習初心者から開始し、海外留学プログラム参加以降、本格的にアカデミックな英語（TOEFL iBT 対策）+自分の興味のある英語学習を並行して実行できるようサポートした。</li> <li>6. 10回目の面談で、上級レベルの英語力を身に付けることに成功したが、「留学」ではなく「海外インターンシップ」を選択したと報告があった。</li> </ol> | <p>・ <b>目標設定+自己効力感+理想の自分像</b></p> <p>モチベーションは非常に高いながらも実力が追いついていない状態だったため、「手の届く目標値」を都度話し合いで設定し、達成したら目標値も更新するようにしていた。</p> <p>進路にいつも迷っていたが「最終的な目標」はぶれていないか常に確認するようにしていた。</p> |

■ケース 9

- ・ 相談者の悩み：大学の交換留学にいきたいが、スピーキング学習に不安
- ・ 学部：経済学部
- ・ 学年：2年
- ・ 相談期間：4カ月
- ・ 来訪回数：7回

| 相談者との対話の内容   | アドバイスで重視した点   |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 交換留学に4カ月後には出発するという段階にあり、当初より自主的に来訪。</li> <li>2. 「アメリカで就職したい」という明確な将来像があり、それまでの過程として、「3年ではなく2年生でアメリカへ交換留学行き」を決定。</li> <li>3. 面談初回時ですでに自律した英語学習者ではあったが、特にスピーキング学習について、現在通っている英会話学校のレッスンがじっくり来ておらずモヤモヤしていると相談あり。</li> <li>4. 英会話学校のレッスンに対して、どう感じているのか、求めているものは何か、どのくらいの期間通学していて、スピーキングスキルはどうなったと感じるかを確認。</li> <li>5. 英会話学校は、あくまでもスピーキングができるかどうかに着目してレベルを決めていること、テキストに書いてある英語が全部理解できても「知っている」と「話せる」は違うことを伝えた。同時に、「留学前のスピーキング学習における目標」が「ネイティブと同等レベルで話せるようになる」というものだったが、後に振り返って検証できるもっと具体的目標に変更するよう話し合い、再設定した。</li> <li>6. 4カ月の間、留学前まで6回来訪。その間、TOEFL iBTにも挑戦。留学直前にはメールでも相談あり。</li> <li>7. 7回目最後の面談では、TOEFL iBTテストの結果報告とともに、「奨学金成績優秀者」に選ばれたとの報告があった。</li> </ol> | <p>・ <b>目標設定＋自己効力感＋理想の自分像</b></p> <p>2年生で交換留学に行けるよう大学の勉強を頑張り、英語学習も一人で取り組み、理想の自分像に向かって今まで努力してきたことを認め、褒めた。</p> <p>スピーキング学習の目標が「留学前にネイティブと同等レベルで話せるようになる」だったが、現実的・具体的・がんばれば達成可能な目標へ、話し合っ本人も納得の上、再設定した。</p> <p>初めから自律した英語学習者だったが故に感じる「留学前の焦り」をひたすら傾聴した。解決方法を複数提示し自分で取捨選択できるようサポート。自己決定後、学習を継続できるようサポートした。</p> |

# まとめ

英語学習アドバイザーは基本的に、学習者に教えず、学習者の取り組みを否定せず、学習の結果に評価を下すことはしない。ひたすら、学習者個人に寄り添い、個人の事情を踏まえて、学習を自分で継続していけるように背中を押して、支援する。学習者の学習行動パターンを変えることを直接的目的とし、自律的学習の確立を目指す。学習習慣のついていない新入生も、海外の大学院進学を目指す3年生も、それぞれに悩みを抱えつつ学習を進めている。

ここに報告したのは、2013年度、2014年度の2年間、ESAC資格を持った学習アドバイザーが5つの大学に「常駐」して継続的に支援した事例である。学習支援2年目に相談件数が飛躍的に伸びたり、相談の内容そのものが変質してきたりした実態を報告した。

学習アドバイザーの運用が2年目になると、以下のような変化が起きていた。

1. 年間利用件数が前年度比で約1.4倍に増えた。
2. 「誰をターゲットとして」「何を行うのか」という大学側の姿勢を明確にすることの大切さが分かる結果となった。学年別に利用実態をみると、「1年生のTOEICテスト対策」「大学院生の留学試験対策」など、大学の施策を反映した学習者の相談が増加した。
3. 学習相談を利用する学生の相談内容は、「留学したい」「TOEICテストのスコアを上げたい」など、英語学習を通して実現したい目的が次第に絞り込まれての相談になる傾向がでてきた。
4. 学内における「ロコミ」が広がり、アドバイザーとの面談そのものを自分の継続学習のペースメーカーとして役立てようとする「リピーター」が増えた。

一方で、「常駐」ではない形で英語学習を支援しているケースも多々ある。学習アドバイザーが週に数回訪問する大学、対面ではなくメールや時には電話を使ってサポートしている企業などもある。一人の学習者と何度も面談して継続的にサポートすることが難しく、その時の1回限りの学習相談で終わってしまう場合もある。支援の仕方は、それぞれの教育機関の事情と方針に沿って決定される。

周囲の環境はどうあれ、「なんとか英語学習を進めたい、しかしどうすればいいかわからない」という学習者は多い。万人に有効な学習方法というものはなく、自分に合ったものがその人にとっての最良の学習方法となる。学習者一人ひとりと向き合うのが難しい各種教育機関と一体となって「あなたにとって最適な学習方法」を探す支援をするのが、英語学習アドバイザーの仕事である。



◆連絡・問い合わせ先◆

---

株式会社アルク

東京都杉並区永福 2-54-12

Email: [mark@alc.co.jp](mailto:mark@alc.co.jp)